



◆『物流政策勉強会の開催』

副本部長・物流政策委員長 笠原 史久
〔多摩支部 (株)NTSロジ〕

物流政策委員 多摩支部 株式会社NTSロジ 笠原史久でございます。

先日 物流政策委員会主催による関東運輸局 自動車交通部との意見交換会を開催させて頂きました。今年の内容は、「トラック適正化二法とトラック・物流Gメンの活動状況について」関東運輸局自動車交通部 杉田貨物課長と石川専門官に講話を頂きました。

トラック適正化二法に関しては、法改正の背景（2024年問題）などから法改正までの流れ、実際に改正された詳細の説明などをしていただきました。しかし、更新制度の内容に関する内容は、いまだ何も決まっていないとのことでしたが、貸切バスが更新制になった背景とトラックが更新制になる背景は違っているので、貸切バスのような審査にはならないという話がありました。

またトラック・物流Gメンに関しては、現状の実施状況や内容を詳細に教えていただきました。活動が強化されていることもあり様々な事例を紹介していただきました。

まずは適正な運賃を収受し、適正な管理・教育をしていくことで、運送業界の未来が開けてくるのではないかと感じました。引き続き、行政との情報交換をしながら、皆様の経営に有意義な情報を提供できるようにして参りたいと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

◆『旭日双光章』

副本部長・本部連絡委員長 田中 秀明
〔練馬支部 東京港運送(株)〕

3月26日に令和7年度第2回本部連絡会を開催しました。今回は昨秋の叙勲にて旭日双光章を授章された竹内副会長をお招きし、連絡会の部では講話と質疑応答、懇親会の部では授章を祝う会を実施させて頂きました。今回は竹内副会長のご厚意により、各種会見の場として有名な日本記者クラブの会議室・会見場を手配頂きました。というのも、竹内副会長の前職（だいぶ昔）がサンパウロ新聞社の記者という経歴により会員価格での会場利用が可能となりました。会場の珍しさも手伝って30名近い方々に出席頂き盛会となりました。

第一部の連絡会冒頭では旭日双光章の授章を機に作成されたプロモーションビデオを視聴させて頂きました。これにより竹内さん（以降、親しみを込めて竹内さんで統一します）の生い立ちや竹内運輸工業の沿革などを知ることが出来ました。ところでこのビデオ、プロが制作した映像だけあって竹内さんが遠い世界の偉人のように感じられます。知らない人が見たら凄い人だと思ってしまうでしょう。もちろん実際の竹内さんも相当に凄い人ですが、もう少し人間味あふれた身近な人です。不意に私もいつかこんなビデオ映像を作りたい！と思ってしまったのですが、披露する機会がないので無駄ですね・・・。

ビデオ後にお話し頂いたのは、竹内さんが年度初めに会社の管理者に向けて話すという、社長から社員へのメッセージのような内容が中心でした。竹内さんの経営哲学や信念、世界情勢の捉え方などをお聴きし、成長する会社に必要な「理念の見える化」のようなものを学びました。日産自動車前身のプリンス自動車の仕事をメインに成長してきた会社が、日産の凋落によるリバイバルプランの逆境に遭遇した時の経営判断。未知の分野である医薬品

やドラッグストアの領域へ打って出る決断をした竹内さんの当時の心境を思うと、同じ経営者としては「すごい」と簡単に言うてしまうにはあまりに難しい決断だったと想像します。進むべき道が見えていても、全責任を負ってそれを決断するのは経営者です。その決断が出来ること、その道を全社員が同じ方に向けて進むような組織を作ったこと、竹内さんの経験から学ぶことは多いと感じました。

質疑応答では旭日双光章ってどうすればもらえるの？の問いには、明確な返答は頂けませんでした。45年間会社のためのみならず業界を良くしようという思いを持ち続け、行動してきたことに尽きると思います。45年間・・・継続というにはあまりにも膨大な時間です。旭日双光章という栄誉を得て一区切りつきたいま、今後の竹内さんがどんな活動をしていくのか？という問いには、形は変わっても業界の発展に携り続けるのが希望であるとの回答を頂きました。竹内さんには是非、ロジ研の名誉顧問として活動のアドバイス等頂ければ幸いです。

ロジ研の創設者であり初代本部長でもある竹内さんから創設時のロジ研の存在意義や理念を学び、現在のロジ研が求められている活動を再認識することは大切なことだと感じました。竹内さん曰く、当初のロジ研には会の発足にも活動にも「大義」があったと。この「大義」がロジ研全体、会員一人一人の道標となって一体感や方向性が固まっていくのだと。現在のロジ研を顧みたときに、個性・・・と言うよりは私の強い人たちの集まりで、一見まとまりの欠片も無さそうな我々が掲げる「大義」とは何なのか？これをはっきりとさせることで、今後の活動はより良く、意味のあるものへと昇華するのだと確信しました。いや、そう思いたいと自分に言い聞かせました。

第二部の懇親会では、冒頭に吉本本部長から竹内さんへの花束贈呈と共に、コスモス企画の鶴沢社長からも花束が贈呈されました。田中前本部長の発声で乾杯の後は、美味しいお料理とお酒を頂きました。閉会時には歴代本部長の藤倉さんからもお言葉を頂戴し、閉会の挨拶は次期本部長（だと思ふ）の大島総務委員長、締め発声は藤倉さんにトラ協スタイルでさせて頂きました。

参加して頂いた皆様ありがとうございました。手配・運営にあたった本部の皆様お疲れ様でした。竹内副会長おめでとうございます、そしてありがとうございました。

◆『ロジ研の皆様へ』

(一社)東京都トラック協会 業務部
教育研修・輸送グループ長 大竹直人

この度、業務部 教育研修・輸送グループ長を拝命しました大竹直人と申します。「ひびき」という貴重な場をお借りして、一言ご挨拶を申し上げます。

私はこれまで約24年間、貨物自動車運送事業者の現場に身を置いてまいりました。最初の14年間は自らハンドルを握り、毎日トラックで走り回る日々でした。そして後半の10年間は現場を支える立場となり、事業運営の難しさと重要性を学ぶことができました。

54歳という年齢での新たな挑戦であり、同じ業界とはいえこれまでとは立ち位置も異なり、正直なところ一抹の不安もございません。しかし、これまでお世話になってきたこの業界で、今までとは違う視点から皆さまとご一緒する機会をいただけたことに、大きな喜びを感じるとともに責任も感じている次第です。

現在も物流業界は大きな変革期にあるのではないのでしょうか。さまざまな課題があるかと思いますが、こうした時だからこそ私



も過去の経験を少しでも活かして、毎日の仕事に向き合っ
たいと考えております。

日々、新しいことを学ぶ毎日は新鮮であり、この年齢になっ
ても成長の機会をいただけることは私にとって大きな喜びです。微
力ではありますが、トラック輸送業界が今よりも一歩でも良い方
向へ向かえるよう、皆様から助言を頂きながら精一杯、取り組む
所存です。

休みの日には外出していることが多く、所属している野球チ
ームに参加したり、いろいろな土地での散歩をしたりという週末を
過ごしております。もしもお勧めの散歩スポットなどがございましたら、そちらのアドバイスも頂けますようよろしくお願
いいたします。

まずは皆さまに顔と名前を憶えていただけるよう、様々な所に
顔を出しますので、何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしく
お願いいたします。

◆『令和7年度海外交流事業について』

ロジ研事務局・永谷 浩規

令和7年度のロジ研海外交流は、3月12日(木)～15日(日)
の日程でマレーシアの首都、クアラルンプールで実施しました。

1. 本年の海外交流事業の目的

東ト協ロジ研の事業として、毎年度1回、外国の物流施設、公
共・公益施設等の見学を通じ、最新の交通物流事情や経営環境を
学ぶとともに、経営者としての視野を拓け時代の変化に即応でき
る経営感覚を身につけることを目的として海外交流事業を実施し
ておりますが、本年のテーマとして、現在の国内の物流業界にお
いては、一昨年4月から自動車運転者の時間外労働に対する年960
時間の罰則付き上限規制が適用されたことに伴い、輸送能力の低
下が懸念される、いわゆる「物流の2024年問題」に直面してい
ると同時に、運転者の高齢化や若年層の労働力不足も深刻化して
おります。

そのような課題を抱えつつも、海外展開を果たし持続可能な企
業運営がなされている日系物流事業者の現場視察及び現地の外国
人ドライバー教育等に関する意見交換を行うことにより、物流の
受難時代を乗り越え、持続可能(サステナブル)な企業運営を行
うためのノウハウを体得することをテーマとして実施しました。

2. 渡航先の検討経過について

マレーシアの首都であるクアラルンプールは、日本と比べると
まだまだ途上国ではありますが、サービス業と製造業を基盤とし
て年々成長しているとともに他の東南アジア諸国に比べて交通イン
フラが整備されており、トラック輸送のニーズも高まっている
ことを鑑み今年度の研修先として選定いたしました。

3. 視察先

(1) ニチレイロジグループ担当者との意見交換・関連施設の見学

- ① 「NL COLD CHAIN NETWORK (M) SDN. BHD.」
- ② 「NL Litt Tratt Group Sdn. Bhd HUB1」
- ③ 「NL Litt Tratt Group Sdn. Bhd Klang Valley DC」

ニチレイロジグループは、温度管理が必要な商品の保管・輸送
を通じて、日本の食生活を支えている国内最大の低温物流企業で
あるとともに、欧州、中国、ASEAN 地域など幅広く海外事業を開
展し、世界規模で低温物流サービスを提供しています。

そこでの意見交換と見学で得たこととしては、現地ドライバー
の教育については、その国の文化、宗教に沿った採用、教育、職
場環境の整備が永年勤続のポイントとなっていることを鑑みると、

今後日本において外国人労働者を雇用していくにあたっては、応募者の国の文化、宗教を理解し就業形態や環境整備に配慮していくことが重要であるということ学びました。

特に、今回の視察先であるマレーシアは多民族国家であり、文化、宗教もそれぞれ異なります。例えば、ボーナスの支給日を宗教によって変更したり、お祈り部屋を設けたりと働きやすい環境を作
ってあげることが重要となります。

日本は宗教を意識しないマネジメントスタイルですが、マレー
シアでは、まず初めに宗教を意識したところから始まります。日本も作業員、事務スタッフともに外国人労働者に頼らざるを得ない状況であり、外国人を雇用するにあたり、国内物流においても宗教を意識した取り組みが必要となるのではないのでしょうか。

また、物流倉庫の見学では、マレーシアでは出稼ぎ外国人の雇
用により安価に運営できているものの、属人化は効率低下や品質のばらつきを招き、ヒューマンエラーのリスクが高まることを考慮し、WMS等の技術導入による効率化への移行を進めています。

国内の物流では人手不足であることを考慮すると、業務前、業務後の点呼でロボット点呼が導入されているように、AI等の技術導入を進めていく必要性を感じました。



現在の少子高齢化社会、若年層を中心とした働き方の多様化が背景にある日本において、今後も人手不足は避けて通れないことから、次年度以降のロジ研海外交流事業においても、外国人ドライバーの雇用、教育、国内物流に活かせる人材確保を中心に実施先を検討してまいります。

(2) 三井ショッピングららぽーと・ブキツ・ピンタン・シティーセンター(「MFBCC」) MFBCCは、東南アジア最大規模のフラッグシッププロジェクトであり、三井不動産が掲げる「グローバルカンパニーへの進化」の一翼を担っています。2022年1月に開業し、マレーシア初出店の日系ブランドや現地の人気ブランドなど、約400店舗を展開していることから、マレーシアにおけるショッピングモールの荷捌き状況について現地担当者の説明を受けながら視察を行いました。

MFBCCの荷捌き所の稼働時間については8時から22時となっており、この時間帯は特に事前の申請などは必要なく搬入することができるが、400店舗が展開しているということもあり、1日あたり100台前後の車両が出入りしている。ここで問題となってくるのが、国内でも課題となっている待機時間(荷待ち時間)だが、担当者によると15分から30分以内には搬入口に入場出来るようになってきているということでした。また、生鮮食品などについては専用のスペースを設けており、優先的に搬入できる工夫が施されてい
ました。

なお、時間外でも、事前に申請を行えば入場出来るようになっている。例えば、新規の店舗をオープンする際は、物量が多くなり搬入に時間を要することから時間外(夜間)の搬入を依頼し、他の搬入に影響が生じないように工夫しています。

今年度の海外交流事業における詳細な報告書につきましては、ロジ研のホームページ(<http://www.ttal.jp/>)にて公開しておりますので是非ご覧下さい。
